

私たちの町の遺跡 大名墓物語 細川家の人々

■第11話 細川家の「こだわり」

江戸時代の大家墓所には、それぞれに特徴があります。その大家墓所において守られ受け継がれていく、墓に対するこだわり、ともいえるものです。それは、墓の形や石材であったり、墓に置かれる華瓶や灯籠の形であったり…、様々なところに表れています。

それでは、肥後細川家の墓所の「こだわり」は、というと…。それは手水鉢です。手水鉢は、通常、神社などに置かれていますが、大家墓所でも、お参りの際に墓前で手を清めるために、また、墓全体を荘厳な雰囲気にするために置かれていています。横手の妙解寺（みょうげじ）跡にある細川家歴代藩主墓の手水鉢をみると…。通常は四角い形なのですが、細川家のものは、自然のままの石に丸い水穴を彫り込んだ形となっていて、周辺には石が敷かれ、低い樹木が植えられています。このような形は蹲（つくばい）—茶庭に置かれる背の低い手水鉢—の設えを倣ったものです。他にも古い五輪塔の部材を転用・改変して作ったような形の手水鉢もあります。このようなものは「見立て」といわれ、やはり茶庭で用いられるものです。

代々の殿様が茶人・文化人であった肥後細川家。墓の前に置かれた手水鉢は、そんな細川家の家風を表したものだといえるのです。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗

手を清める手水鉢にも自然石を少しだけ細工した「見立て」のこだわりが…

蹲（つくばい）形の手水鉢

「見立て」の手水鉢

